

報告

令和4年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

令和4年8月25日
学校教育課

1 実施概要

- (1) 実施日 令和4年4月19日（火）
- (2) 対象学年 小学校第6学年・中学校第3学年
- (3) 実施教科等

ア 教科に関する調査

- ・小学校第6学年：国語、算数、理科
- ・中学校第3学年：国語、数学、理科

注：「主として『知識・技能』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」とを一体的に問う問題が出題されている。

注：理科は3年に1度調査を実施。本来は昨年度実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により本年度実施。

イ 質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童生徒に対する調査
- ・学校における指導方法に関する取組等の学校に対する調査

2 平均正答率の状況（京都市含む）

	国語		算数・数学		理科	
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
小学校	68	65.6	65	63.2	64	63.3
中学校	69	69.0	52	51.4	49	49.3

3 結果の概要

- 小学校、中学校ともに、全ての教科で平均正答率が全国平均以上である。
- 京都府においては、授業におけるICT機器の使用頻度が全国に比べて高く、また、調べる場面、意見を交換する場面、考えをまとめ発表する場面等、授業における様々な場面での活用頻度も全国に比べて高い。

4 教科の概要（京都市を除いている。）

- 全国と比較して、D層（下位）の割合は少ない傾向にあるが、算数・数学、理科においてはA層の割合も少ない。
- 領域や観点によって、全国平均を下回っているものもあるが、全国の傾向と大きな違いはない。

(1) 小学校国語

- ・他の領域に比べ、書くことの領域に課題が見られる。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること（府正答率39.3%、無答率11.4%）に課題がある。

⇒第1・2学年では「内容や記述等に見られる具体的なよさ」、第3・4学年では「書こうとしたことの明確さ」、第5・6学年では「文章全体の構成や展開の明確さ」などを見付けることができるように、系統的に指導することが重要。目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝えたりする指導が効果的である。

[illegible]

【文章2】から言葉や文を取り上げて書いているが、【文章2】のよさを書けていない誤答が29.2%

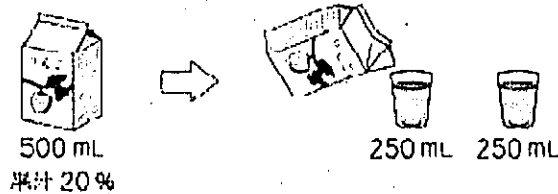
(2) 小学校算数

- ・他の領域に比べ、変化と関係領域に課題が見られる。割合を用いて問題を解決する場面において、数量（飲み物の量）が変わっても割合（飲み物の濃さ）は変わらないことを理解すること（府正答率19.0%）に課題がある。

⇒日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるよう指導することが重要。

(a) リンゴの果汁が20%は含まれている飲み物が500 mL あります。

この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mL になります。



250 mL の飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mL は 500 mL の $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

㊦

上の㊦にあてはまる文を、下の 1 から 3 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

「1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。」
を選択した割合が70.2%

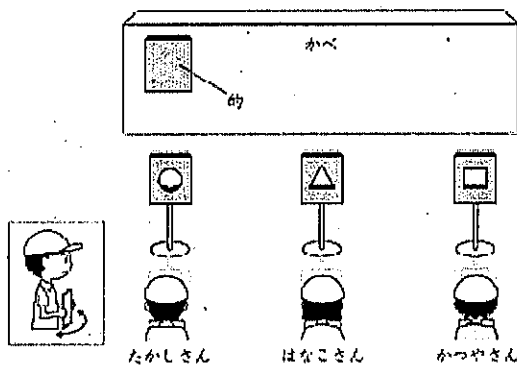
(3) 小学校理科

- ・知識・技能の観点に課題が見られる。日光が直進することについて理解すること（府正答率28.5%）や、水が水蒸気になって空気中に含まれていることを日常生活に関連付けて理解すること（府正答率58.3%）に課題がある。

⇒知識をより深く理解できるようにするために、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにすること、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるようにすること、問題解決を通して習得した知識を使って、日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定することが重要。

3

たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、ゆあてゲームをしました。



上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、四角、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの鏡ボールの板を置きました。

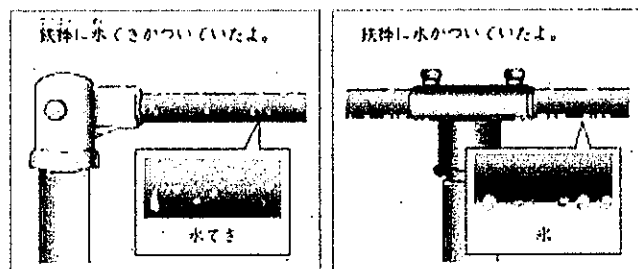
- (1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの鏡ボールの板にあてたときに、かべの左にある時に、三角形の光をあてることができるのはたかしさんか。下の 1 から 4 までの甲から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たかしさん
- 2 はなこさん
- 3 かつやさん
- 4 全員

「2 はなこさん」を選択した割合が48.8%

「空気」、「気体」など、水蒸気について正しく理解できていないと考えられる解答の割合が26.1%

- (4) よしこさんは、インターネットを使って、各地の友達から朝のようすの写真を送ってもらいましたが、その中で2枚の写真が気になりました。



よしこさんは、2つの現象を調べて、次のようにまとめました。
[] にあてはまることばを書きましょう。

朝 鉄棒に 水てきや氷がついていた。気温が下がり、空気中の [] が冷やされて、水てきや、水てきになったあと氷になる現象が見られた。左の写真は「つゆ」、右の写真は「どうろ」というらしい。気温のちがいで、異なる現象が起こることがわかった。

(4) 中学校国語

- ・書くこと、情報の扱いに関する事項に課題が見られる。引用の仕方や出典の示し方について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くこと（府正答率44.3%）に課題がある。
- ⇒本や資料から文章や図表などを引用する必要がある言語活動の中で、引用の際には引用箇所を「 」でくくることが、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認するとともに、引用する目的や効果について考えるように指導することが重要。それらを踏まえ、意見文などを書く際に、自分の考えを支える根拠として資料を適切に引用することなどができるように指導することが重要。

二 線部①と線部②のひらがなを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの「コメントの一部」を踏まえて、で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「農林水産省のウェブページにある資料の一部」から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かきかっこ「」でくくることが。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

引用する部分を「 」でくくっていない解答の割合が43.9%

(5) 中学校数学

・知識・技能の観点に課題が見られる。自然数を素数の積で表すこと(府平均34.4%)、一次関数の変化の割合を理解すること(府平均36.4%)、与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取ること(府平均52.9%)に課題がある。

⇒用語を正確に理解したり、表・式・グラフを関連付けて理解したりすることができるよう指導することが重要。解決の見通しを持つ場面で出された方法の説明として不十分なものを取り上げて吟味し、より洗練された表現に高めていく工夫も重要。

1 42を素因数分解しなさい。

素因数や約数等を解答している割合が47.5%
府平均34.4%は、全国平均52.2%から-17.8%

4 下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...

イ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

ウ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

エ

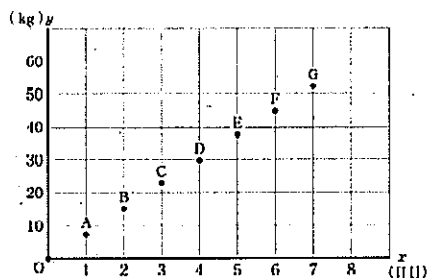
x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...

「イ」を選択した割合が34.5%

二酸化炭素削減量の合計の記録

x (日)	0	1	2	3	4	5	6	7
y (kg)	0	7.2	15.2	22.8	29.7	37.8	44.9	52.4

※ y の値は小数第2位を四捨五入



次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

(1) 二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、点Eの座標を書きなさい。

点が格子点上にない座標について、表と関連付けず、およそで解答した割合が21.4%

(6) 中学校理科

・知識・技能の観点に課題が見られる。力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を説明することはできているが、矢印で表すこと（府正答率12.5%）、課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能を身に付けること（府正答率42.6%）に課題がある。

⇒実験を通して、目に見えない力を矢印を用いて正確に表し、つり合いの関係を説明したり、課題に立ち返りながら考察を行うために、どのようなグラフを作成すればよいかを検討したりする学習場面を設定することが重要。

「キ」を選択できているが、「ア」が選択できていない割合が65.4%

5 ばねを押すとき、加える力の大きさとばねが伸びる長さの関係について、理科の授業で科学的に探究しました。

(1) から(3)までの各問いに答えなさい。

押して使うばねを扱う場面

ばねの伸びは、加える力の大きさと比例の関係がありました。

ばねは、生活の中で押して使うことが多いですね。

ばねを押すときも、比例の関係が成り立つのかな。

押して使うばね

ボールペンのばね

自転車のサドルの下にあるばね

図1

透明なプラスチックの筒

おもり

ばねが伸びる長さ

ばね

床

図2 おもりにはたらく重力

(1) 図2のように、ばねにのせたおもりが静止したとき、矢印で表したおもりにはたらく重力とつり合う力を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

また、出んだ力の反作用として適切なものを、下の力からケまでの中から1つ選びなさい。

ア おもりがばねを押し下げる力

イ おもりがばねを押し上げる力

ウ おもりが床を押し下げる力

エ おもりが床を押し上げる力

カ おもりがばねを押し下げる力

キ ばねがおもりを押し下げる力

ク おもりが床を押し下げる力

ケ 床がおもりを支える力

(2) 【考察】に最も適したグラフを、下のAからDまでの中から1つ選びなさい。

図3

ばねの長さ (cm)

力の大きさ (N)

A

B

C

D

実験の結果

力の大きさ(N)	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5
ばねの長さ(cm)	10.0	8.0	6.0	4.0	4.0	4.0
伸び長さ(cm)	0	2.0	4.0	6.0	6.0	6.0

考察

「B」を選択した割合が24.3%

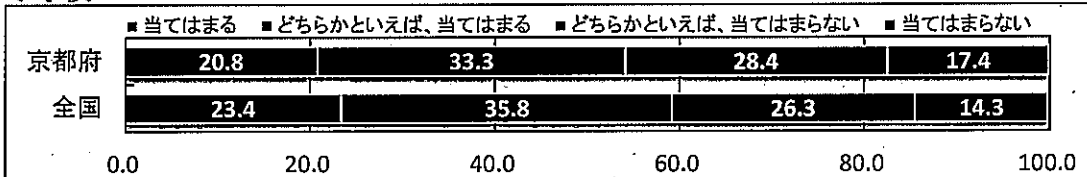
5 児童生徒質問紙調査結果から ※京都府のデータからは、京都市を除いている。

(1) 学ぶ意義について

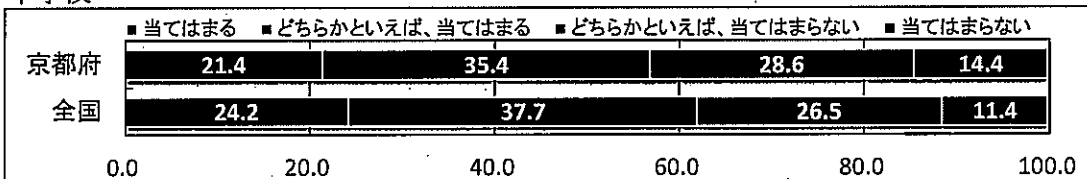
- 「教科の勉強は好きですか」という質問に対して、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国に比べて低い傾向がある。
- 全国的に、算数・数学、理科については、小学校より中学校で肯定的に回答している割合が下がる傾向があるが、京都府ではその傾向がより顕著である。

Q49 国語の勉強は好きですか

小学校

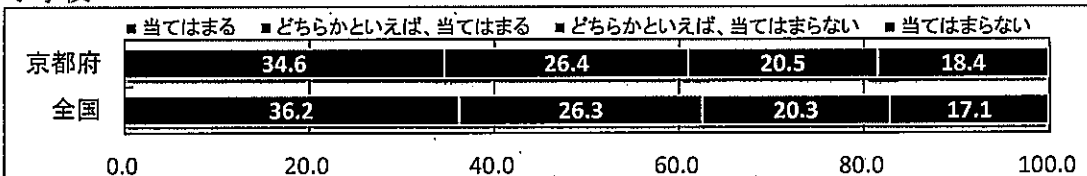


中学校

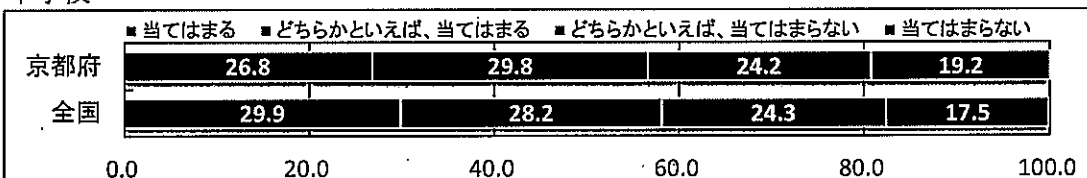


Q53 算数（数学）の勉強は好きですか

小学校

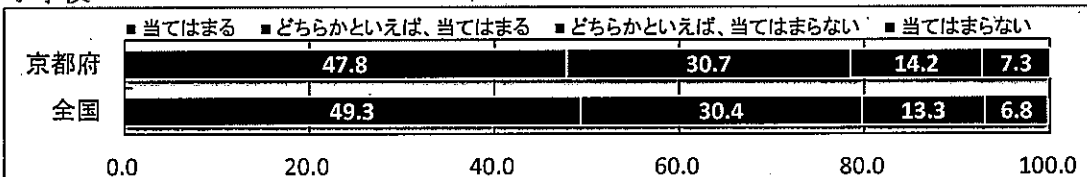


中学校

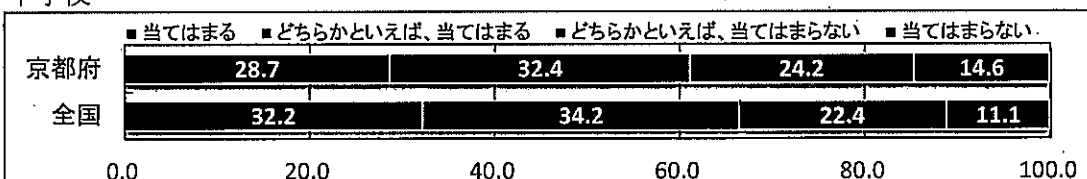


Q61 理科の勉強は好きですか

小学校



中学校



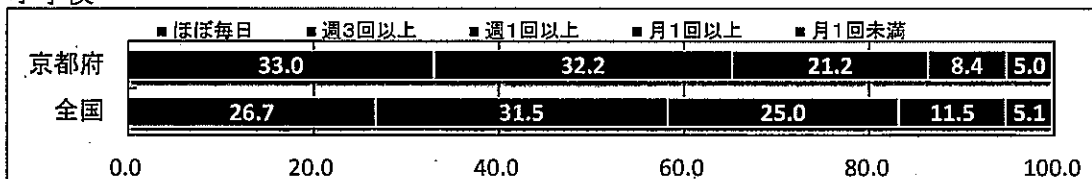
(2) ICT活用について

○学校でICT機器を使用している割合は全国に比べて高い傾向がある。また、調べる場面、意見を交換する場面、考えをまとめ、発表する場面等、授業における様々な場面での活用頻度も全国に比べて高い傾向がある。

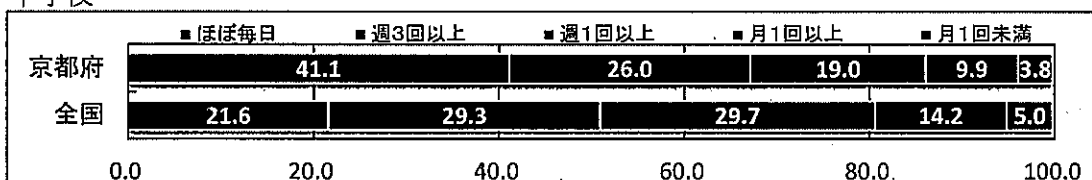
○普段（月曜日から金曜日）、SNSや動画を視聴する割合は、小学校、中学校ともに全国と比べて高い傾向がある。

Q32 5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

小学校

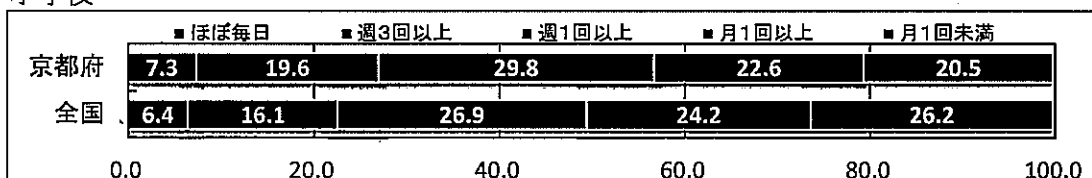


中学校

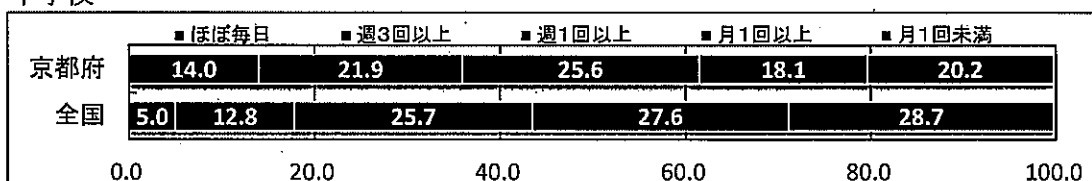


Q34 学校で、学級の友達（生徒）と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか

小学校

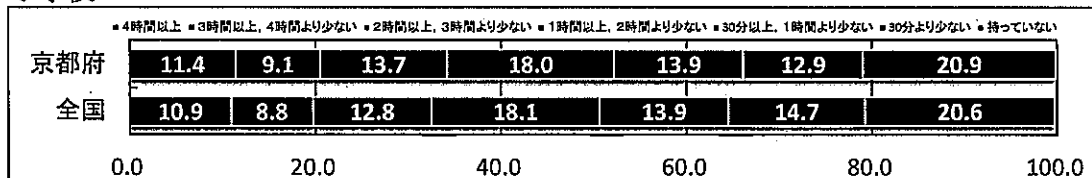


中学校

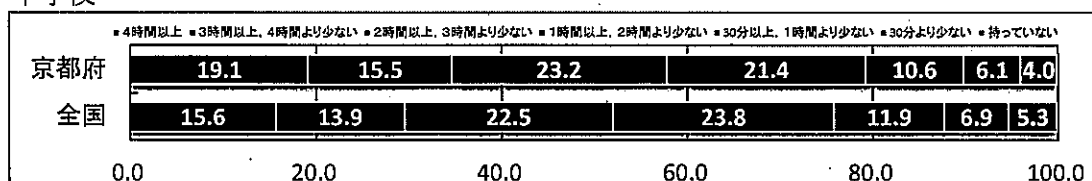


Q6 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

小学校



中学校



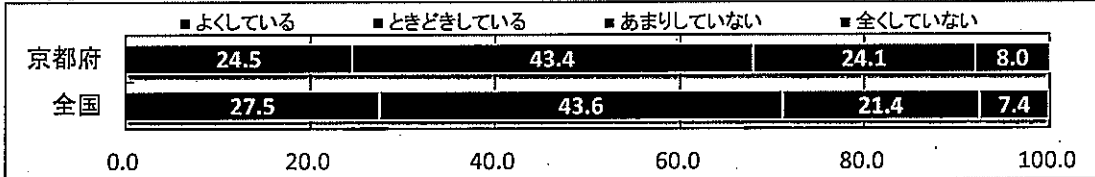
(3) 家庭学習について

○家で計画的に学習する割合は、小学校では全国と比べて低い傾向にあるが、中学校では全国とほぼ同程度の割合である。

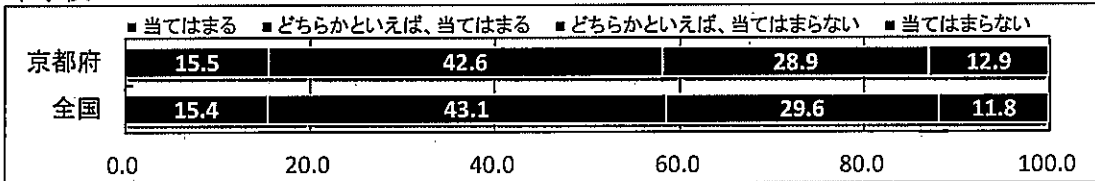
○学習時間について、小学校、中学校ともに全国より短い傾向がある。特に、全くしない割合が中学校で大きく増える傾向がある。

Q20 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

小学校

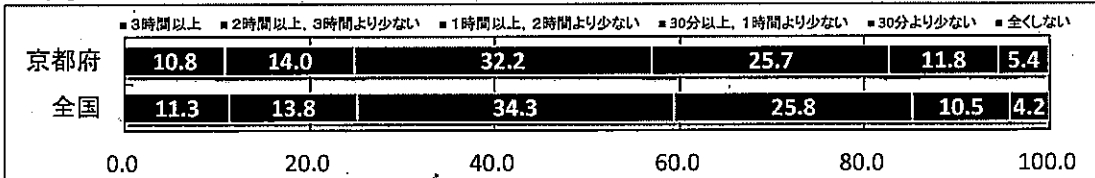


中学校

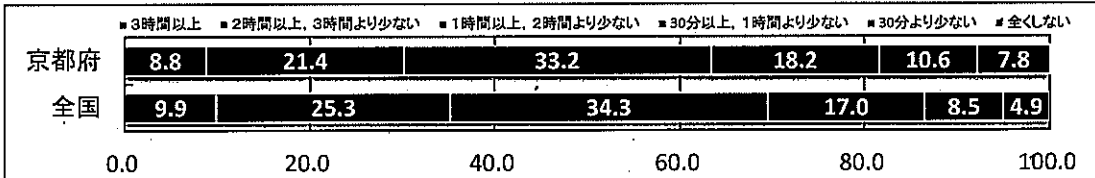


Q21 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校

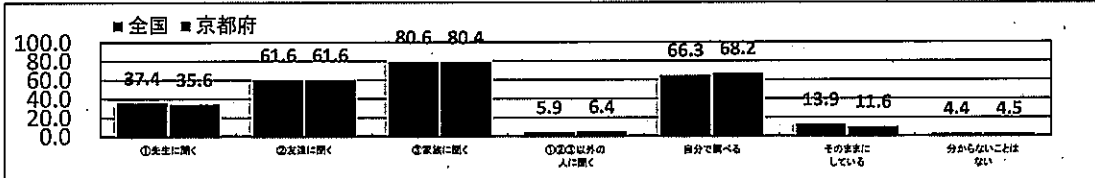


中学校

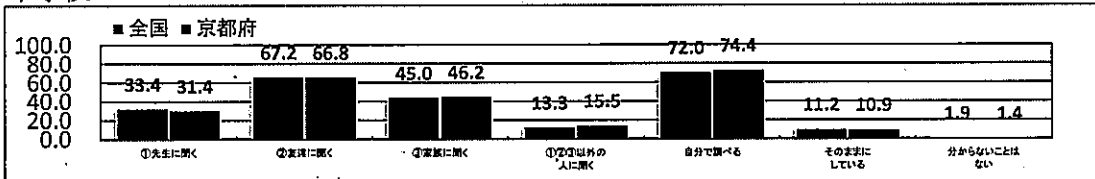


Q19 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか（複数選択）

小学校



中学校

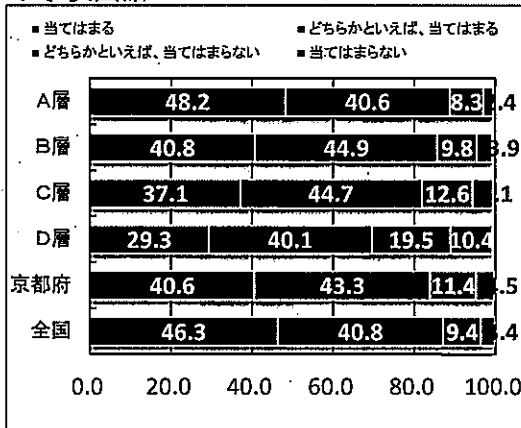


(4) 自己有用感について

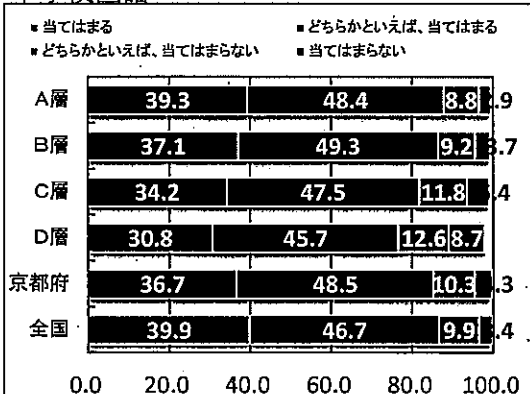
- 「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対する回答は、全国とほぼ同じ傾向がある。(紙面の都合上グラフは割愛)
- 「先生はよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対して、肯定的に回答している割合は、小学校で全国より低い傾向がある。
- 以下のグラフは各教科の正答率とのクロス集計であるが、教科の学力が低い児童生徒ほど、肯定的に回答する割合が低い傾向がある。

Q 8 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

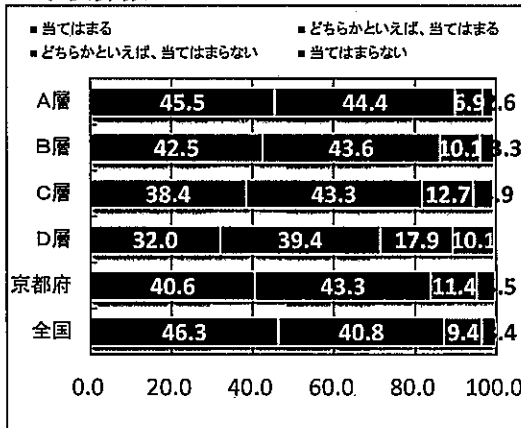
小学校国語



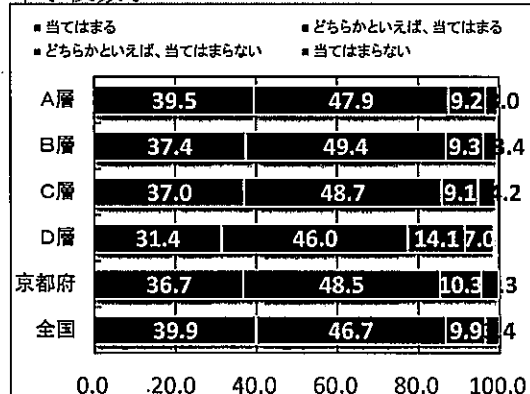
中学校国語



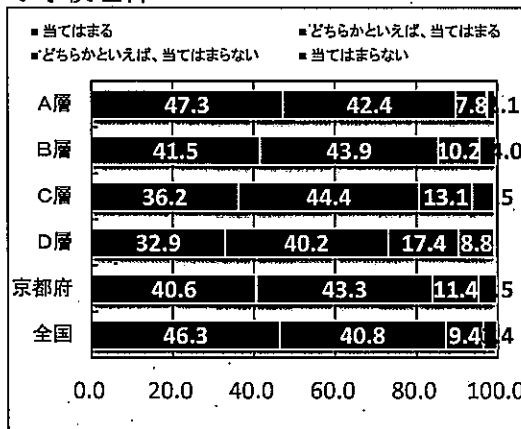
小学校算数



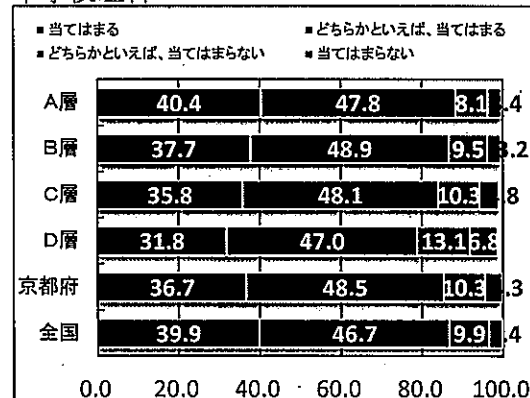
中学校数学



小学校理科



中学校理科



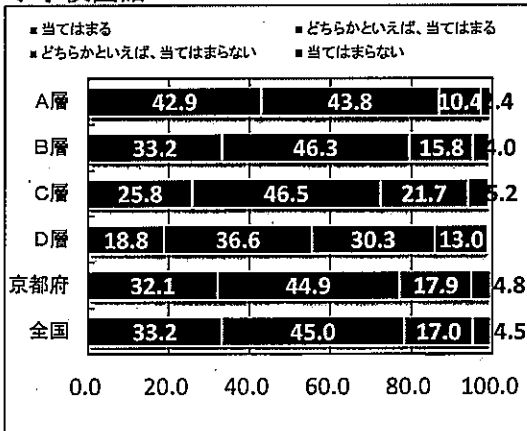
(5) 主体的・対話的で深い学びについて

○「学習した内容を見直し、次の学習につなげているか」という質問に対する回答は、全国とほぼ同じ傾向がある。

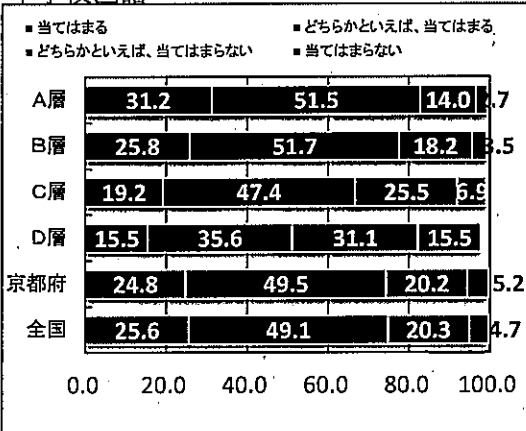
○数学の授業で決まりや公式のわけを理解する、理科の授業で自分の予想をもとに計画を立てることについて、教科の学力が低い児童生徒ほど、肯定的に回答する割合が低い傾向がある。また、小学校より中学校で肯定的な回答の割合が大きく下がっている。

Q44 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

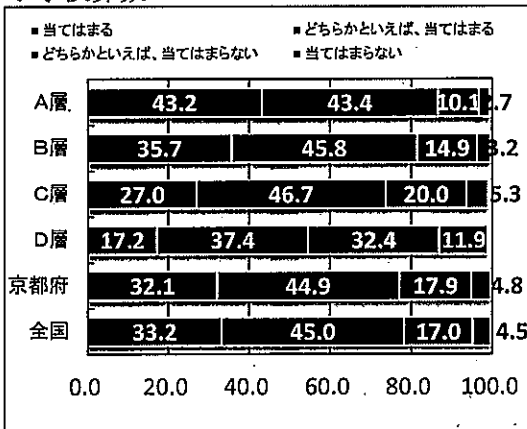
小学校国語



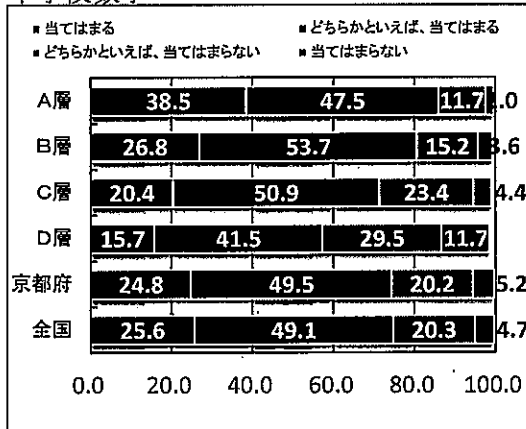
中学校国語



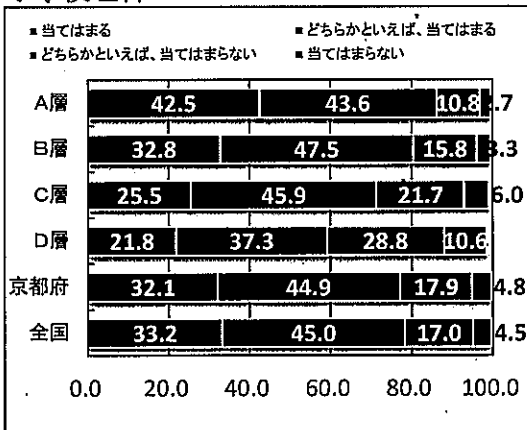
小学校算数



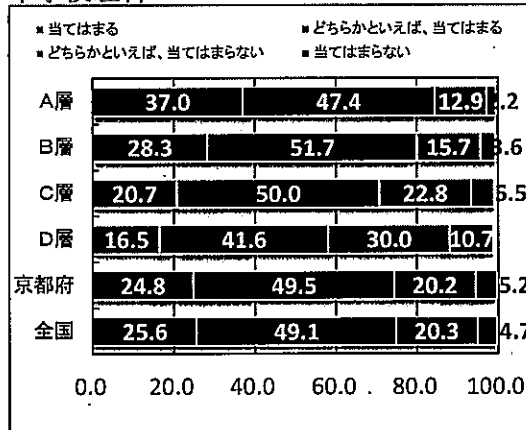
中学校数学



小学校理科

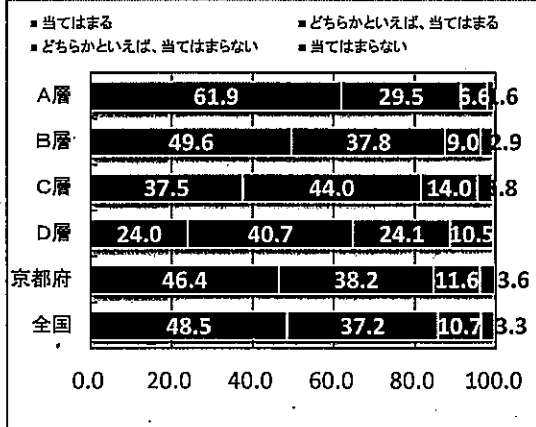


中学校理科

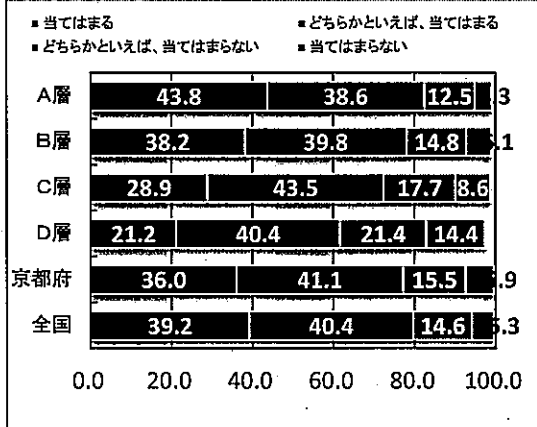


Q60 算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

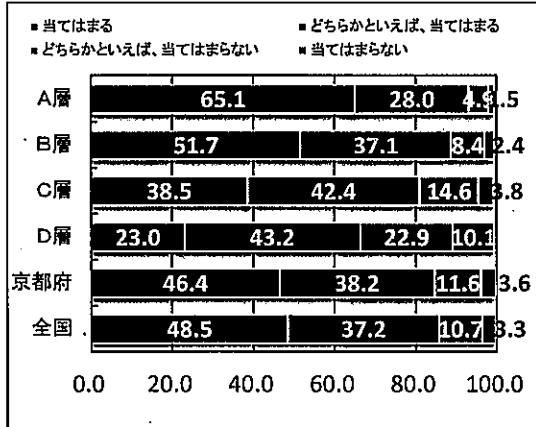
小学校国語



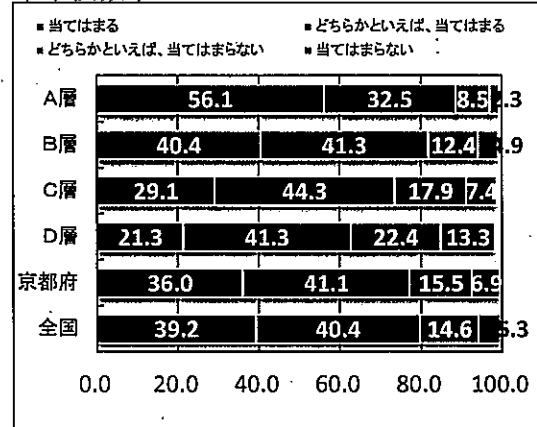
中学校国語



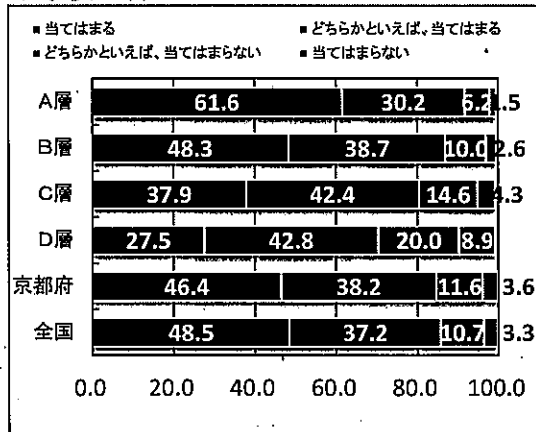
小学校算数



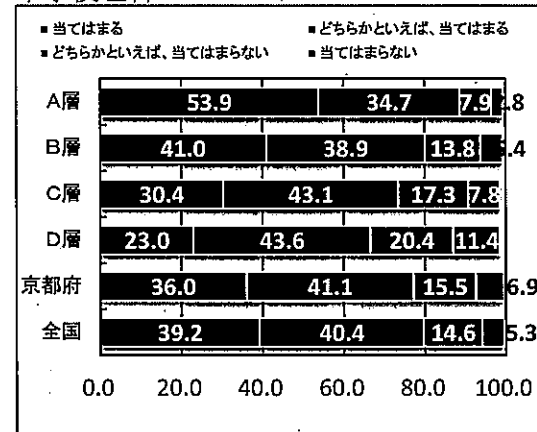
中学校数学



小学校理科

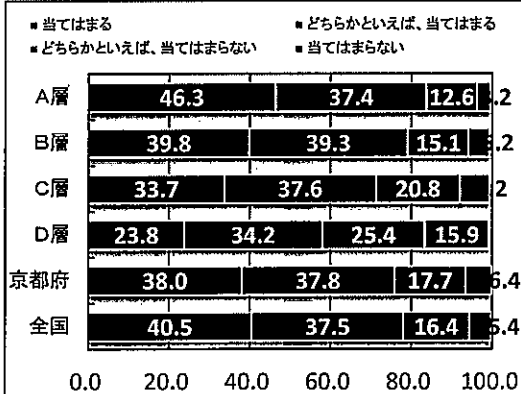


中学校理科

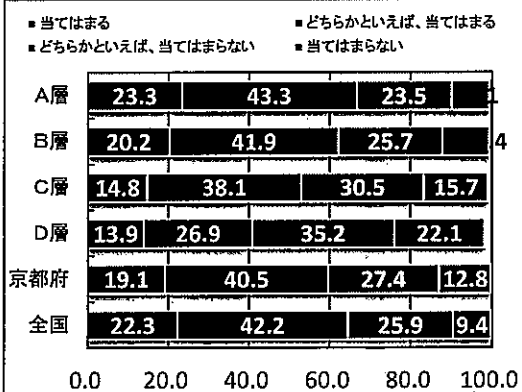


Q67 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

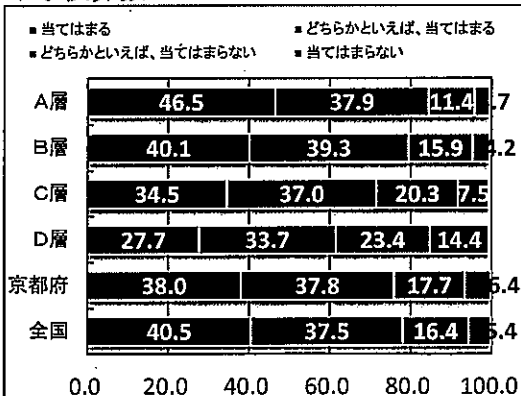
小学校国語



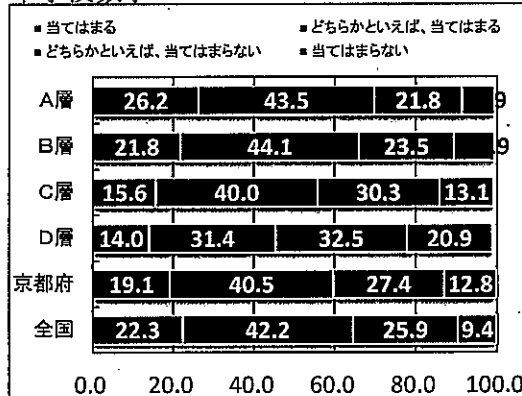
中学校国語



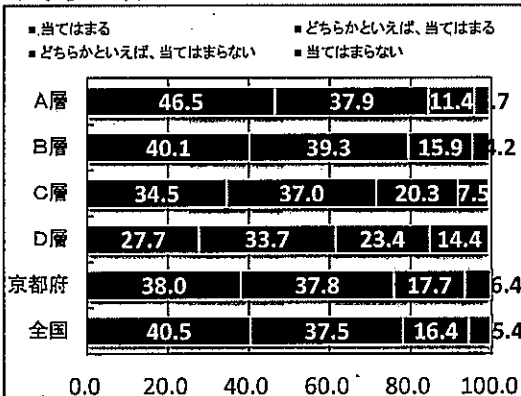
小学校算数



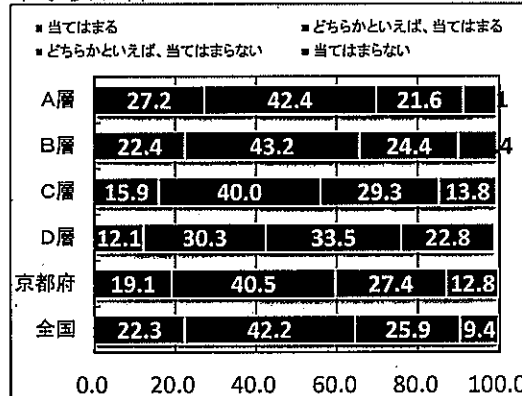
中学校数学



小学校理科



中学校理科



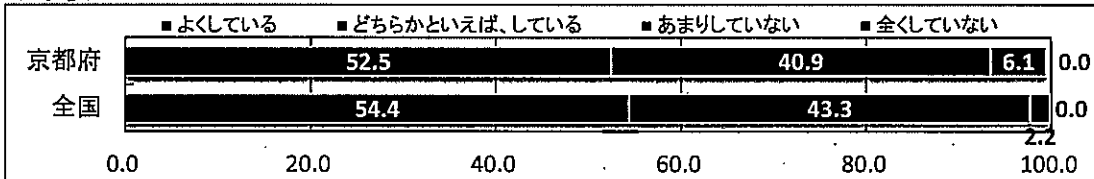
6 学校質問紙調査結果から ※京都府のデータからは、京都市を除いている。

(1) 研修等について

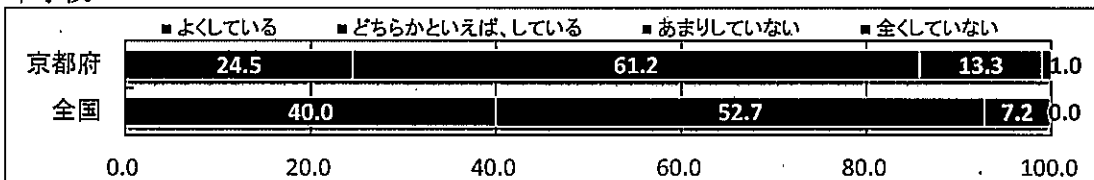
- 授業研究や事例研究等の研修など、実践的な研修を行っている割合は、全国と比べ低い傾向がある。特に中学校では全国との差が大きい。
- ICT機器の使い方を学ぶ研修機会の割合は、全国に比べて高い傾向がある。
- 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行っている割合は、小学校で全国と同じ傾向、中学校では割合が低い傾向がある。

Q19 授業研究や事例研究等，実践的な研修を行っていますか

小学校

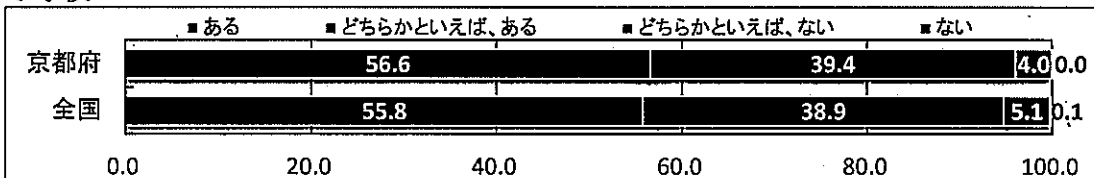


中学校

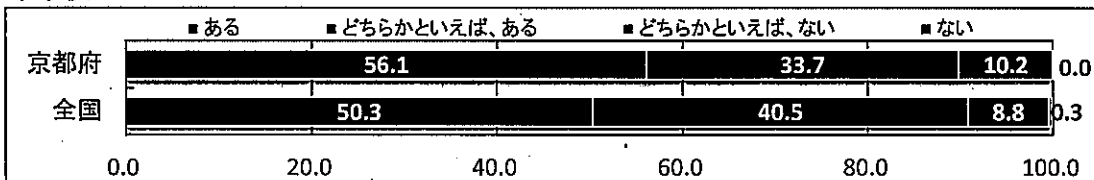


Q57(55) 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか

小学校

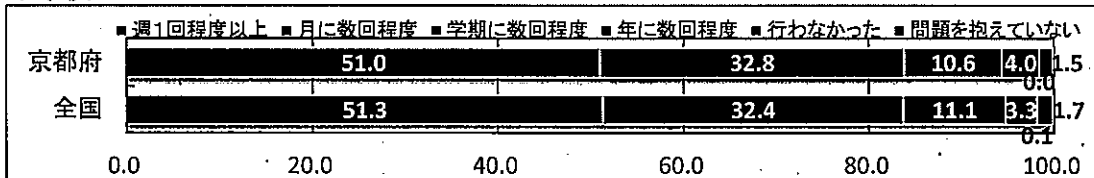


中学校

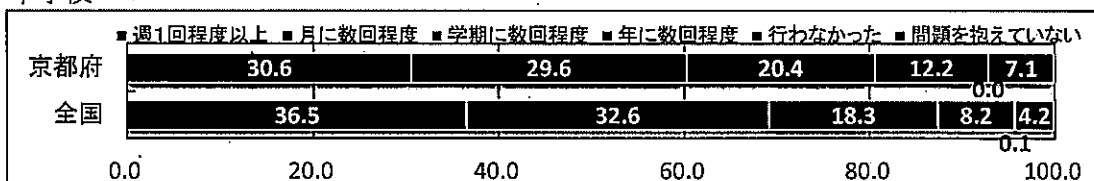


Q13 前年度に，教員が学級の問題を抱えている場合，ともに問題解決に当たることを行いましたか

小学校



中学校



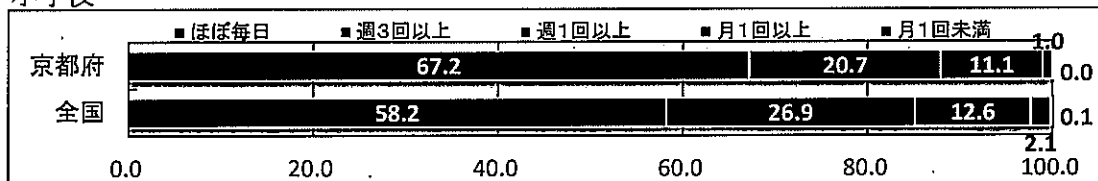
(2) 授業改善等について

○授業の中でICT機器を活用している割合は、小学校、中学校ともに全国に比べて高い傾向がある。

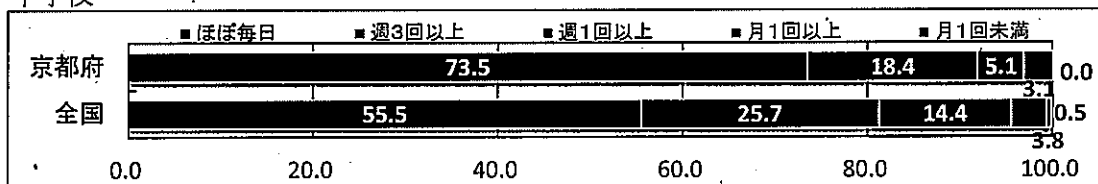
○数学の授業で決まりや公式のわけを理解できるよう工夫する、理科の授業で自分の予想をもとに計画を立てることできるよう指導することについて、小学校より中学校で肯定的な回答の割合が下がっている。

Q59(57) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

小学校

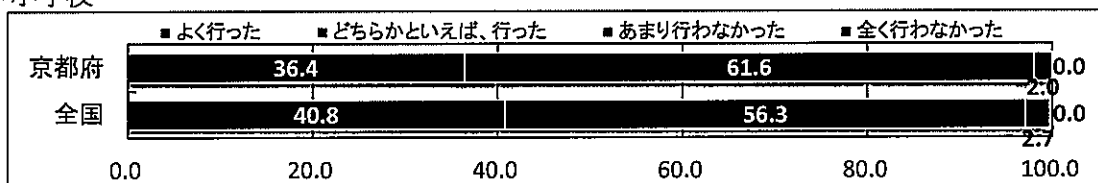


中学校

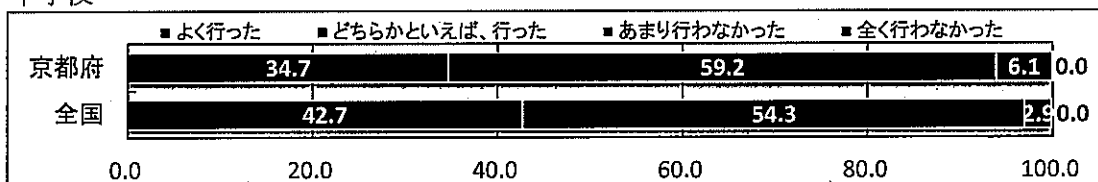


Q48 算数(数学)の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童(生徒)がそのわけを理解できるように工夫していましたか

小学校

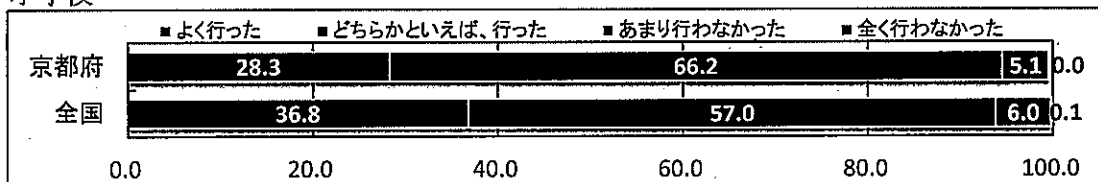


中学校

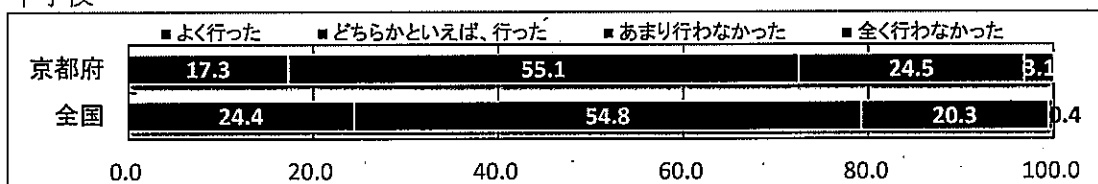


Q52(51) 理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか

小学校



中学校



資料

令和4年度全国学力・学習状況調査結果の教育局別概要について

1 教育局別の状況

(1) 平均正答率

- 府内各地域の状況を教育局別の平均正答率で示しています。
- 各教育局別の平均正答率は、小学校、中学校ともに概ね全国平均に近い値ですが、教科毎にみると一部に課題が見られます。

小学校	国語	算数	理科
全国	65.6	63.2	63.3
京都府	68	65	64
乙訓局	70	67	66
山城局	66	64	62
南丹局	63	61	61
中丹局	67	64	66
丹後局	63	61	61

京都市含む

中学校	国語	数学	理科
全国	69.0	51.4	49.3
京都府	69	52	49
乙訓局	72	56	51
山城局	69	49	48
南丹局	68	48	48
中丹局	68	46	48
丹後局	71	50	50

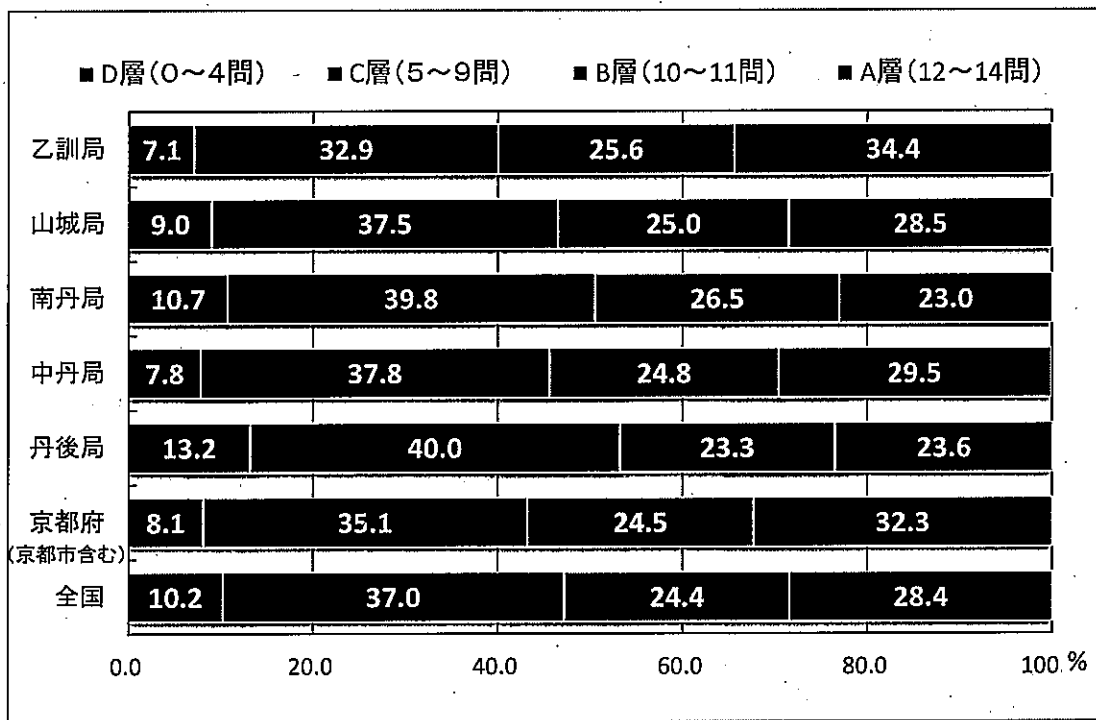
京都市含む

(2) 児童生徒の学力状況（正答数分布状況より）

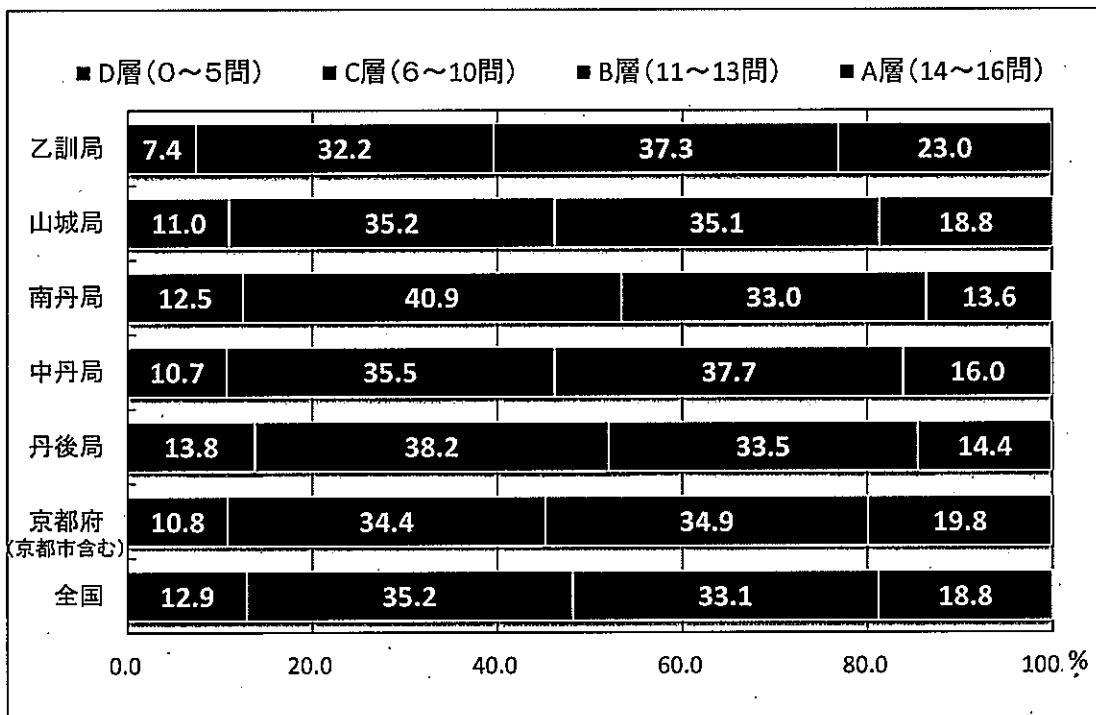
- 次の正答数分布状況グラフは、児童生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。
- 各教科・各年度の平均正答数以上の児童生徒をA層（上位）、B層（下位）、平均正答数未満の児童生徒をC層（上位）、D層（下位）にそれぞれ二分割して分析します。
例えば小学校国語Aの出題数は14問あり、全国平均正答数が9.2問です。したがって、0～4問がD層、5～9問がC層、10～11問がB層、12～14問がA層となります。

◆小学校第6学年正答数分布状況

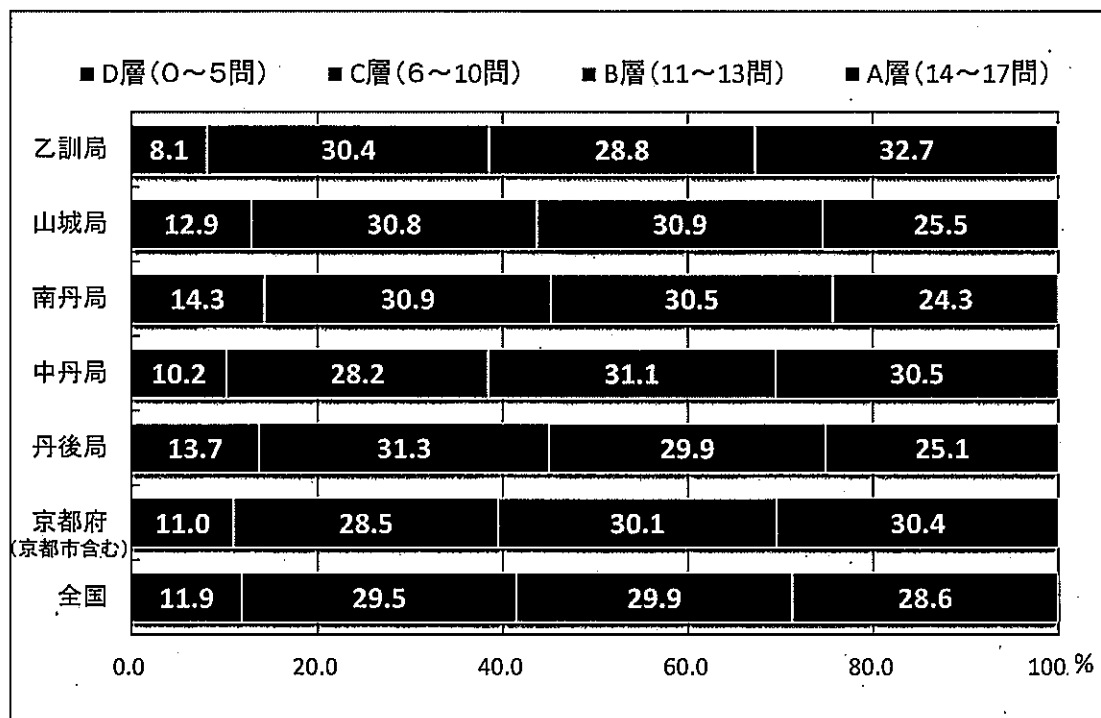
ア 国語



イ 算数

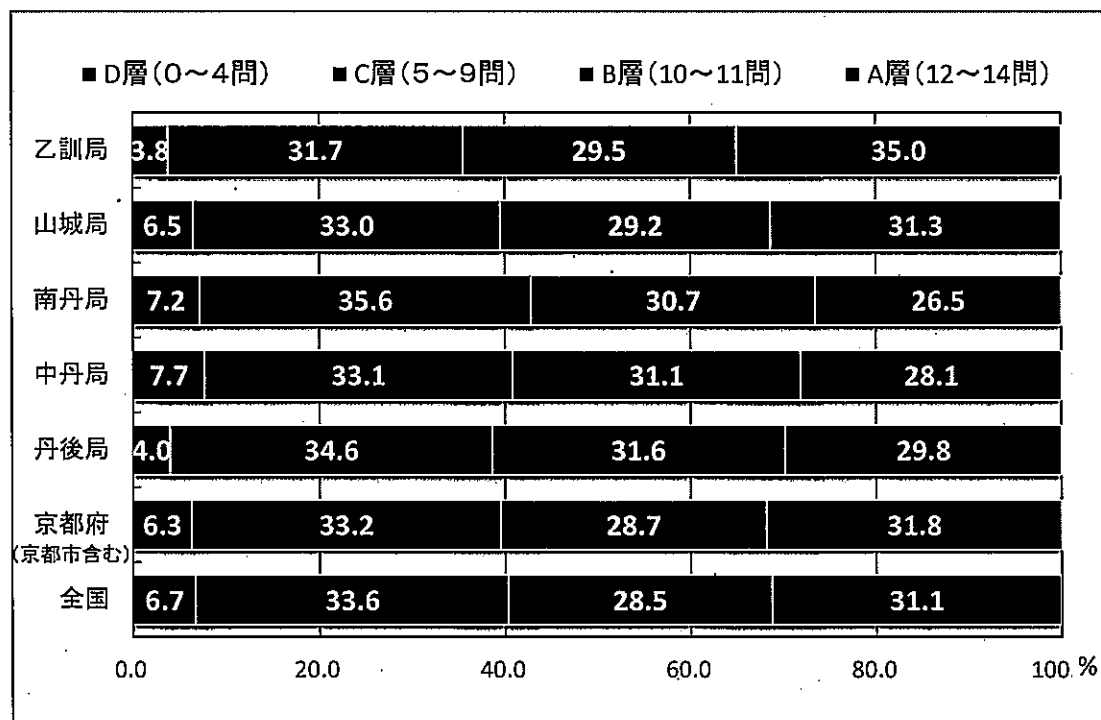


ウ 理科

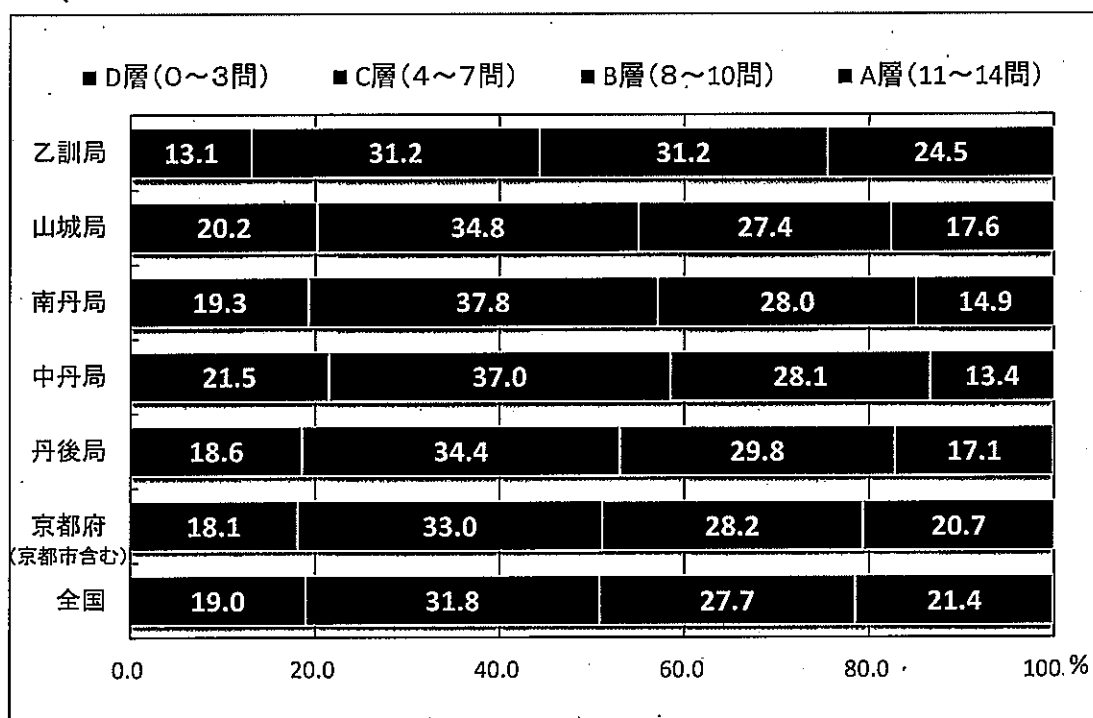


◆ 中学校第3学年正答数分布状況

ア 国語



イ 数学



ウ 理科

